

令和8年度 学校評価報告書（目標設定）

視 点	3年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒一人ひとりの学習ニーズと学力の状況に応じた多様で柔軟な教育課程編成及び確かな学力の育成を図るため組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②基礎・基本の定着に向けて学び直しや他者との協働的な学びを積極的に取り入れるとともに、様々な学習支援の方法について研究を進め、生徒一人ひとりに向き合い社会に対応できる力を培うことが出来る教育実践に取り組む。</p> <p>③学校行事や生徒会活動を充実させ、生徒の主体的な活動、協働的な取り組みにより、問題を解決する力を育む。</p>	<p>①確かな学力の育成のため、教科横断的な授業改善を継続して行う。また、非認知能力に着目し、教育活動全体を通してその育成を図り、生徒が自ら課題を見いだし解決に向けて主体的に行動できる力を育成する。</p> <p>②ア 教科横断的な学び直しについて取り組む。</p> <p>②イ 非認知能力の育成について取り組む。</p> <p>③学校行事や生徒会活動を充実させ、生徒の積極的な参加を促すとともに、創造的な活動に主体的に参加できるよう促す。</p>	<p>①研究授業を企画・運営し、研究協議を教科横断的に行うなど工夫した授業改善を行う。</p> <p>②ア 各教科の計画を全体で共有し、効果的な学び直しを行う。</p> <p>②イ 非認知能力に関わる講演会を開催する。また、教科会において改善を図る。</p> <p>③全校生徒が参加できる行事を計画し、生徒が主体的に取り組めるよう、魅力ある行事でさらに活性化をする。</p>	<p>①研究協議や生徒による授業評価を用いて組織的な授業改善ができたか。特に授業評価の項目1、4、7に着目する。</p> <p>②ア 生徒による授業評価を用いて組織的な授業改善ができたか。</p> <p>②イ 教科会や勉強会において改善を図ることができたか。</p> <p>③生徒主体の行事の生徒参加率が上昇したか。</p>						
2 生徒指導 ・支援	<p>①生徒理解に基づく「温かくかつ厳しい毅然とした生活支援」と教育相談等の個に応じた支援体制の充実を図る。</p> <p>②部活動の積極的な参加を促し、活動を通して、自主自律の精神や責任感、連帯感を涵養する。</p>	<p>①ア 生徒の基本的な生活習慣の確立のために、職員間で共通の認識を持ち、粘り強い指導・支援を継続して行う。</p> <p>①イ 生徒一人ひとりの困り感やニーズを把握・課題を解決させるために、組織的な支援体制を充実させ情報を共有化して支援にあたる。</p> <p>②自主自律の精神や責任感を持たせ、良好な人間関係を構築させるために、部活動の積極的な取組みを支援し、きめ細やかに指導する。</p>	<p>①ア 規範意識の醸成を目指し、全職員が共通認識を持ち、生活支援体制を構築する。</p> <p>①イ 教育相談の充実のため、SSW、SCとの全員面談を実施し、SSW、SCと職員間での問題意識の共有と共通認識により取り組む。また、ワーキンググループの編成など組織的な取組みをさらに充実していく。</p> <p>②部活動では、他校との合同チームによる大会参加など、活動する方法の工夫により、参加率を高める。</p>	<p>①ア 生徒理解に基づいた生徒指導・支援を継続することで、指導件数が減少したか。</p> <p>①イ 外部機関を含めた支援体制を組織したか。</p> <p>②部活動の参加率の上昇および継続数が増加したか。合同チームなど大会の校外活動の実施数が増加したか。</p>						

視点	3年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3 進路指導・支援	①生徒一人ひとりが、生涯にわたる多様なキャリア形成を見据えて、「こうしたい、こうありたい」という志を持つ生徒に育てることを目指し、進路指導の充実を図る。	①生徒一人ひとりが、自分の生涯を見据え、主体的にキャリア形成を考え、行動できる能力と態度を育成する。	①総合的な探究の時間を中心に、卒業後の自分をイメージし、自らの進路を主体的に選択し、行動できるようキャリア教育や外部を招いたガイダンス等を行う。 ①進学・就職等の生徒の進路希望実現に向けて、進路実現プロジェクト講座を設け、生徒の活動を支援する。	①生徒にアンケートを実施し、個々の進路指導や進学支援に対し、満足したかどうか。 ①進路実現プロジェクトの参加人数と、進路決定数。					
4 地域等との協働	①地域との協働を大切にし、地域に信頼される学校づくりを進める。 ②ボランティア活動への参加を拡大し、社会性や思いやりの心を育み、自己肯定感を高めさせる。	①地域と連携した活動に積極的に参加を促し、地域の人たちとの交流を進める。 ②清掃活動等に主体的に参加させ、取り組ませることで、思いやりや自己肯定感を高めさせる。	①地域の自治会や町内会等との行事を積極的に広報し、参加者を増やす。 ②ア すぐーを活用して地域との活動の周知を図る。 ②イ PTA からの参加や支援を得ながら生徒の参加を促進する。	①地域の行事の参加者数が増加したか。 ②ア 地域との活動についてすぐーの配信回数。 ②イ 様々な活動への参加者数が増加したか。					
5 学校管理 学校運営	①「生徒」「保護者」「教職員」の三者が誇れる学校づくりを目指し、環境美化の観点から様々な課題改善に取り組む。 ②教員が生き生きと働ける職場とし、ワークライフバランスを推進するために教員の働き方改革を推進する。	①環境美化の観点から整理整頓や清掃の活動に積極的に取り組み、生活で登校の意欲がたかまるような学校の環境を整える。また完校に伴い、空き教室などの有効活用をする。 ②風通しのよい職場づくりと教員一人ひとりが自分の良さを生かして働き、結果として生徒・職員のウェルビーイングが向上するとともに長時間勤務が是正されるようにする。	①各クラスの清掃や整理整頓など、環境美化に努めるとともに、PTAと連携し校内外の美化活動に取り組む。 ②関係する職員がグループや役職を超えて、チーム学校として一人ひとりが主体的に取り組む、同僚として安心と仕事のやりがいや喜びを共有できる働き方を推進する。	①美化の参加者の割合は高まったか。空き教室の有効活用ができたか。 ②ストレスチェックの結果が良好かどうか。良くないストレスとなる要因（長時間の勤務など）があったか。					